



## 短期の栄養評価に有用なRTPについてもっと知ろう

今回は、中・長期的な栄養状態の把握に有用なアルブミンよりも、より**短期**の栄養評価に有用な**RTP**についてご紹介します。

実施した栄養療法の効果を、早期に判定することにもつながります。

RTPはRapid Turnover Protein の略で、RTPの種類には

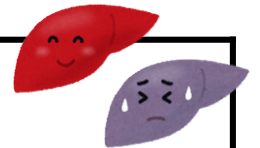
『**トランスサイレチン（プレアルブミン）**』 『**トランスフェリン**』

『**レチノール結合タンパク**』があります。

アルブミンと同様に肝臓で合成されるタンパク質で、血中の半減期が短く代謝も早いので、**短期間（0.5日～7日）での栄養状態の評価**に用います。

※アルブミンの半減期は21日

<p><b>トランスサイレチン（プレアルブミン）</b> 【半減期：2～3日】</p>	<p>栄養状態や肝障害の早期診断に役立つ指標。栄養状態を最も反映するタンパク質で、そのほとんどが<b>肝臓</b>で合成される。血中濃度は肝臓でのタンパク合成能の指標になる。</p> <p><b>上昇</b>：腎機能障害時 <b>低下</b>：肝硬変や肝炎、甲状腺機能亢進症</p>
<p><b>トランスフェリン</b> 【半減期：7～10日】</p>	<p><b>鉄の輸送タンパク</b>で半減期が短いため、栄養状態を感度よく早期に表す。<b>肝臓</b>で合成されるタンパク質で、血清鉄のキャリアタンパク質として<b>ヘモグロビンの合成</b>や<b>鉄代謝</b>に関与。</p> <p><b>上昇</b>：慢性失血、鉄欠乏性貧血 <b>低下</b>：慢性感染症や肝硬変、鉄過剰症、ネフローゼ症候群</p>
<p><b>レチノール結合タンパク</b> 【半減期：12～14時間】</p>	<p>半減期が12～14時間と短いため、短期間の栄養状態の変動を捉える有用な指標。主に<b>肝臓</b>で生成される。腸管より吸収されたレチノールはいったん肝臓に貯蔵され、レチノール結合タンパクと結合して血中に分泌される。</p>



※尚、『**トランスサイレチン**』や『**トランスフェリン**』は炎症においても減少するため、栄養評価において炎症によるものか否かの鑑別のために、炎症マーカーである『**C-反応性タンパク（CRP）**』の同時測定が薦められています。

いずれも、外注でオーダー可能です

